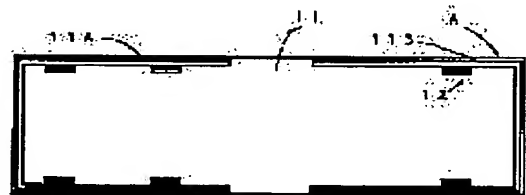


(43)Date of publication of application : 18.08.1998

A45C 11/00
H04Q 7/32
H04M 1/02

(71)Applicant : **SAITAMA NIPPON DENKI KK**

(72)Inventor : ISHIGAMI MASAHIRO



<http://www19.ipdl.ncipi.go.jp/PA1/result/detail/main/wAAAJVaiE4DA410215933P1.h...> 4/19/2006

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2972622

[Date of registration] 27.08.1999

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-215933

(43) 公開日 平成10年(1998) 8月18日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 4 5 C 11/00

A 4 5 C 11/00

E

H 0 4 Q 7/32

H 0 4 M 1/02

C

H 0 4 M 1/02

H 0 4 B 7/26

Z

V

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平9-25096

(22) 出願日

平成9年(1997) 2月7日

(71) 出願人 390010179

埼玉日本電気株式会社

埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原300番
18

(72) 発明者 石上 昌弘

埼玉県児玉郡神川町大字元原字豊原300番
18 埼玉日本電気株式会社内

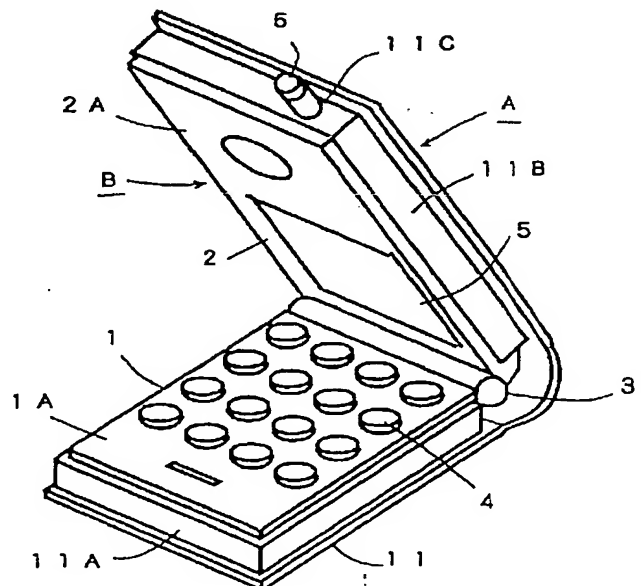
(74) 代理人 弁理士 山下 稔平

(54) 【発明の名称】 携帯電話機用ケース

(57) 【要約】

【課題】 折り畳み式の携帯電話機において、ケース収納状態で、携帯電話機の折り畳み操作、あるいは、開放操作ができるようにして、携帯状態から使用状態への手順、あるいは、その逆の手順を簡素化できるように改良した携帯電話のケースを提供する。

【解決手段】 2つの筐体を折り畳みできるように構成した携帯電話機使用する携帯電話機用ケースにおいて、折り畳みの際に内側となる前記筐体の、操作部や表示部の設けられた内側面とは反対側の外側面に沿って、前記ヒンジ部で可撓な板状のケース本体を装着し、その装着状態を維持するための、前記携帯電話機に対する固定手段が、前記操作部や表示部を避けた位置に配設しており、また、ケース本体には、別に、衣服への装着手段を備えていることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 2つの筐体を、ヒンジ部を介して折り畳みできるように構成した携帯電話機を携帯する際に使用する携帯電話機用ケースにおいて、折り畳みの際に内側となる前記筐体の操作部や表示部の設けられた内側面とは反対側の外側面に沿って前記ヒンジ部で可撓な板状のケース本体を装着し、その装着状態を維持するための前記携帯電話機に対する固定手段が、前記操作部や表示部を避けた位置に配設してあって、前記携帯電話機に、その側縁で左右から係合する係合爪を持った弾性部材で構成されており、更に、前記ケース本体には、衣服への装着手段を備えていることを特徴とする携帯電話機用ケース。

【請求項 2】 前記固定手段は、ケース本体の骨組み部材と一体に構成されていることを特徴とする請求項 1 あるいは 2 に記載の携帯電話機用ケース。

【請求項 3】 前記装着手段は、ケース本体に装着したクリップであり、前記クリップの下側が開放されていることを特徴とする請求項 1 あるいは 2 に記載の携帯電話機用ケース。

【請求項 4】 前記装着手段は、ケース本体に装着した面ファスナーと、衣服のベルトに装着される装着板に設けた面ファスナーとから構成されていることを特徴とする請求項 1 あるいは 2 に記載の携帯電話機用ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、使用者が、携帯電話機を衣類のベルトや衣類自体に装着して携帯する際に、前記携帯電話機を収納して置くための携帯電話機用のケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、使用者が携帯電話機を、例えば、胸ポケットなどに納めて携帯する場合には、屈んだ際にポケットから携帯電話機が滑り落ち、損傷する虞がある。そこで、特に、男性使用者の場合には、クリップなどの装着手段を用いて、衣服のベルトに装着する、所謂、キャリングケースに携帯電話機を収納した形（例えば、登録実用新案第 3024490 号を参照）で携帯している。しかし、この場合も、キャリングケースにリッドを設けて、これを、ホックなどの閉止手段で閉じることにより、前記キャリングケースから前記携帯電話機がみだりに抜け出さない工夫がされている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ここで問題になるのは、前述のように、携帯電話機をキャリングケースに入れて携帯する場合に、携帯電話機を使用状態にするまでに、多くの手順が必要で、取り扱いが煩わしいことである。即ち、手順としては、先ず、1 番目に、ホックなどの閉止手段を外して、2 番目にキャリングケースのリッドを開け、3 番目にケースから携帯電話機を取り出すの

である。特に、携帯電話機が折り畳み式の場合には、キー操作部や表示部の保護、通話時のマイクと口との距離が近いといった特有の利点を持つが、4 番目の手順として、この折り畳み状態から使用状態へ開放する操作が必要となる。

【0004】本発明は、上記事情に基づいてなされたもので、その目的とするところは、折り畳み式の携帯電話機において、ケース収納状態で、携帯電話機の折り畳み操作、あるいは、開放操作ができるようにして、携帯状態から使用状態への手順、あるいは、その逆の手順を簡素化できるように改良した携帯電話のケースを提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】このため、本発明では、2つの筐体を、ヒンジ部を介して折り畳みできるように構成した携帯電話機を携帯する際に使用する携帯電話機用ケースにおいて、折り畳みの際に内側となる前記筐体の操作部や表示部の設けられた内側面とは反対側の外側面に沿って前記ヒンジ部で可撓な板状のケース本体を装着し、その装着状態を維持するための前記携帯電話機に対する固定手段が、前記操作部や表示部を避けた位置に配設してあって、前記携帯電話機に、その側縁で左右から係合する係合爪を持った弾性部材で構成されており、更に、前記ケース本体には、衣服への装着手段を備えていることを特徴とする。

【0006】この場合、前記固定手段は、ケース本体の骨組み部材と一体に構成されているとよく、また、前記装着手段は、ケース本体に装着したクリップであり、前記クリップの下側が開放されているか、あるいは、ケース本体に装着した面ファスナーと、衣服のベルトに装着される装着板に設けた面ファスナーとから構成されているとよい。

【0007】このような構成では、ケース本体と一緒に、携帯電話機を衣服の装着位置から外し、ケース本体を開放する操作で、携帯電話機を折り畳み状態から開放状態に切り換えることができるので、そのまま、携帯電話機の操作部や表示部が外側に露出し、操作手順が大幅に簡素化される。また、折り畳み状態では、ケース本体が携帯電話機全体をカバーし、操作部や表示部を汚れやキズから保護することができる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しながら、具体的に説明する。なお、図 1 は、本発明に係わるケースを、携帯電話機に装備した状態での、半開放の様子を示す斜視図、図 2 は、同じく、閉止の様子を示す斜視図、図 3 は、(a) ~ (d) で、ケースの平面、側面、各端面を示す図、図 4 は、(a) ~ (c) で、ケース固定手段の一例の平面、側面、端面を示す図、更に、図 5 は、(a) および (b) で、衣服のベルトにケースを装着する手段の事例を示す図である。

【0009】本発明に係わる携帯電話機のケースAは、2つの筐体1および2を、ヒンジ部3を介して折り畳みできるように構成した携帯電話機Bを携帯する際に使用するもので、このケースAにおいて、折り畳みの際に内側となる前記筐体1の、操作部4や表示部5の設けられた内側面1A、2Aとは反対側の外側面に沿って、ヒンジ部3の箇所（可撓部）で可撓な、皮や布などよりなる板状のケース本体11を装着し、その装着状態を維持するための、携帯電話機Bに対する固定手段12が、操作部4や表示部5を避けた位置に配設してあり、また、ケース本体11には、別に、衣服への装着手段13を備えている。

【0010】なお、この実施の形態では、携帯電話機Bの自由端面部および側面部を覆うように、ケース本体11には、支持壁面部11A、11Bがコ字形に装着してあって、携帯電話機Bを囲んでいる。また、携帯電話機Bの一方の自由端面部に設けたアンテナ6を外部に突出させるために、支持壁面部11Bの一部には、挿通孔11Cが穿ってある。更に、固定手段12は、携帯電話機Bに、その側縁で左右から係合する係合爪を持った、例えば、金属板バネなどの弾性部材で構成されている。

【0011】更に、図4に示すように、固定手段12を、ケース本体11の内部に縫合される骨組み部材14の一部に一体に形成してもよい。また、この実施の形態として、装着手段13は、図5の(a)に示すように、ケース本体11の外側面に設けられた金属板バネのクリップの形状になっていて、クリップの下側を開放し、衣服のベルトCの縁に挟み込むように構成してもよく、あるいは、図5の(b)に示すように、ベルトCを挿通するための通し部13Aを持った方形の装着板13Bに、所謂、マジックテープと称される面ファスナー15Aを設け、これに対向して、ケース本体11の外側面にも面ファスナー15Bを設けて、相互に着脱できる構成にしてもよい。

【0012】このような構成では、装着手段13を介して、衣服のベルトCなどにケース本体11を装着して置き、必要に応じて、ベルトCからケース本体11を外し、ケース本体11の可撓部を撓ませて、携帯電話機Bを、折り畳み状態から開放状態に操作することで、直ちに通話などの使用可能な状態にすることができる。

【0013】当然のことながら、携帯電話機Bを折り畳み状態にする時、必然的に、ケース本体11によって、携帯電話機Bの全体が覆われ、そのまま、装着手段13により、ベルトCなどに、ケース本体11を装着することができる。また、要すれば、開放状態で、固定手段12を操作し、例えば、係合爪を、そこに働く弾性力に抗して外し、ケース本体11から携帯電話機Bを取り外すことができる。

【0014】なお、この実施の形態においては、固定手段12としての係止爪の形状は、携帯電話機Bを傷つ

けないために、携帯電話機Bの筐体の湾曲に合わせた形状が必要とされる。なお、この係止爪と合致するような窪みを、予め、携帯電話機の側面に形成して置くこともできる。

【0015】

【発明の効果】本発明は、以上詳述したように、2つの筐体を、ヒンジ部を介して折り畳みできるように構成した携帯電話機を携帯する際に使用する携帯電話機用ケースにおいて、折り畳みの際に内側となる前記筐体の、操作部や表示部の設けられた内側面とは反対側の外側面に沿って、前記ヒンジ部で可撓な板状のケース本体を装着し、その装着状態を維持するための、前記携帯電話機に対する固定手段が、前記操作部や表示部を避けた位置に配設してあり、また、ケース本体には、別に、衣服への装着手段を備えているので、ケース本体と一緒に、携帯電話機を衣服の装着位置から外し、ケース本体を開放する操作で、携帯電話機を折り畳み状態から開放状態に切り換えることができるので、そのまま、携帯電話機の操作部や表示部が外側に露出し、操作手順が大幅に簡素化される。また、折り畳み状態では、ケース本体が携帯電話機全体をカバーし、操作部や表示部を汚れやキズから保護することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のの実施の態様において、携帯電話機のケースを、半開きした状態を示す斜視図である。

【図2】同じく、折り畳んだ状態の斜視図である。

【図3】同じく、ケースの平面、側面、および、各端面を示す図である。

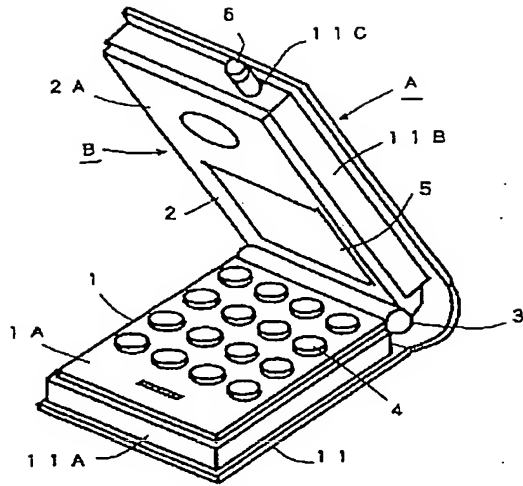
【図4】固定手段をケース本体の骨組みと一体に形成した事例を示す図である。

【図5】装着手段の事例を示す斜視図である。

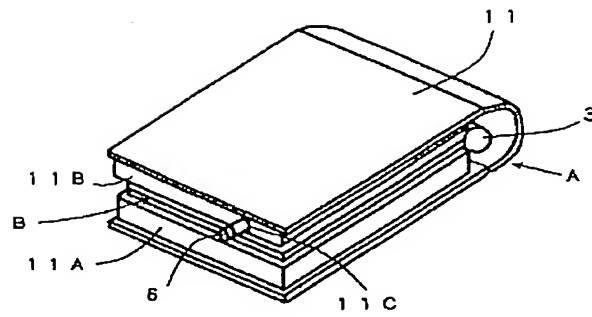
【符号の説明】

- A ケース
- B 携帯電話機
- C ベルト
- 1、2 筐体
- 3 ヒンジ部
- 4 操作部
- 5 表示部
- 6 アンテナ
- 11 ケース本体
- 11A、11B 支持壁面部
- 11C 挿通孔
- 12 固定手段
- 13 装着手段
- 13A 通し部
- 13B 装着板
- 14 骨組み部材
- 15A、15B 面ファスナー

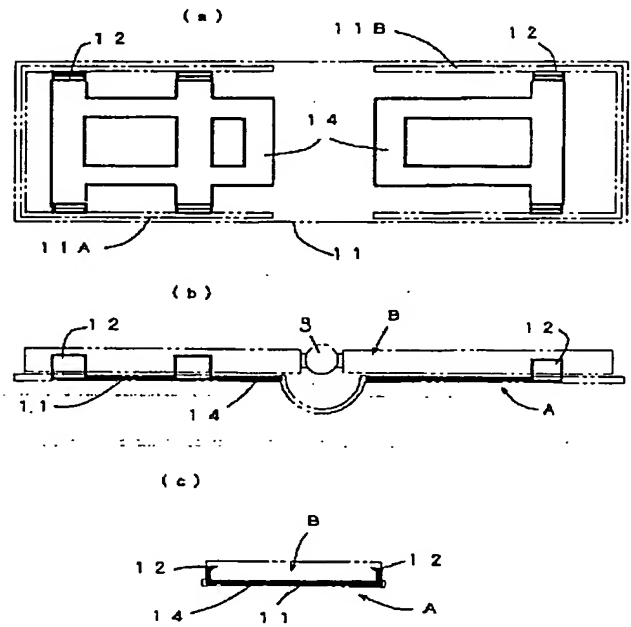
【図1】



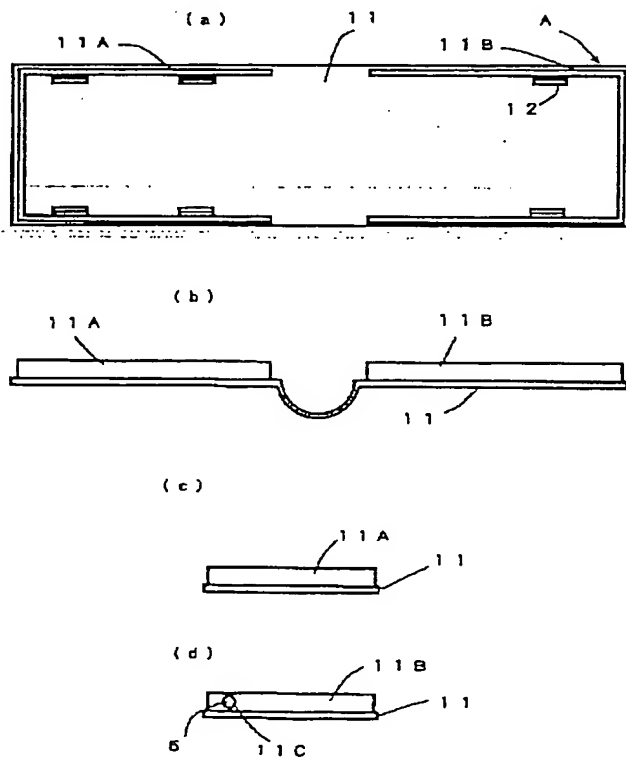
【図2】



【図4】



【図3】



BEST AVAILABLE COPY

【図 5】

